

第55回黒部川土砂管理協議会

●開催要件

○開催日時 令和6年2月14日（水） 13:30～15:30

○会場 黒部市生涯学習文化スクエア「ぷらっと」1F 大ホール

○出席者

- ・ 武隈 義一 黒部市長
- ・ 山下 大樹 富山県農林水産部参事
- ・ 笹島 春人 入善町長
- ・ 金谷 英明 富山県土木部次長
- ・ 笹原 靖直 朝日町長
- ・ 須谷 浩史 関西電力(株)北陸支社長
- ・ 鈴木 修 富山森林管理署長
- ・ 松浦 直 北陸地方整備局河川部長（座長）
- ・ 中島 浩薫 富山県生活環境文化部参事

事務局 北陸地方整備局河川部、関西電力(株)再生可能エネルギー事業本部

●議事

報告事項

- (1) 第59回黒部川ダム排砂評価委員会の評価及び令和5年度連携排砂および連携通砂の実施結果ならびに環境調査結果等について
- (2) 令和5年度連携排砂等の実施結果に関する関係団体からの意見と対応について

座長挨拶

座 長

本日は、年度末の大変お忙しい中、委員の皆様方には、当協議会にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。また、日頃から国土交通行政、とりわけ河川行政にご支援、ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

まず冒頭に、この1月1日に発生しました能登半島地震で被災された全ての方々に心からお見舞いを申し上げたいと思います。

北陸地方整備局におきましては、発災当初からTEC-FORCEの派遣による河川や道路などの被災状況調査をはじめ災害支援にあたっており、今なお引き続き現地の復旧復興に全力で取り組んでいるところでございます。

何とぞ皆さん方にもご協力いただくような場面もあるかと思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

また、今年の夏は渇水傾向ということで、ここ黒部川におきましても渇水情報連絡会の幹事会ということで、5年ぶりに開催をさせていただいたところでございます。皆様方にそれぞれのお立場でご尽力をいただきましたこと、この場をお借りして御礼を申し上げたいと思っております。昨年の取組の中で、幾つか課題もあったと承知をしておりますので、また引き続き、皆様方と取り組んでいければと思っております。

本日、この協議会につきましては、今年度2回目ということで、出し平ダム、宇奈月ダムの円滑な排砂、それから、黒部川流域の適切な土砂管理に関して関係機関との協議、調整を図るということでございます。

昨年度は連携排砂に至る出水が発生しなかったということでございますので、今年度の連携排砂は2年ぶりの実施ということになりました。その中で今年度も、令和2年度から実施しておりますけれども、宇奈月ダムの先行操作ということで、連携排砂と連携通砂を実施させていただいたところでございます。後ほど事務局から、その取組の結果につきましてご報告をさせていただきますので、委員の皆様方から忌憚のないご意見をいただければと思っております。

本日はどうぞよろしく願いいたします。

報告事項

(1) 第59回黒部川ダム排砂評価委員会の評価及び令和5年度連携排砂および連携通砂の実施結果ならびに環境調査結果等について

(2) 令和5年度連携排砂等の実施結果に関する関係団体からの意見と対応について

座 長

説明ありがとうございました。

議事の報告事項(1)、(2)、全てについてご報告をいただきました。

これから質疑応答に入りたいと思いますけれども、(1)と(2)に分けて進めていきたいと思ってございます。

まず、(1)の今年度の排砂の評価の結果等についての質疑から進めてまいりたいと思います。たくさんご説明いただきましたけれども、(1)につきましても、評価委員会の評価ということで資料-1、A3の両面1枚ですけれども、そこで評価のコメントが端的にまとめられているということでございます。

また、参考資料として「連携排砂実施までの流れ」を付けさせていただいております。

前回の1月の評価委員会と今回の協議会の議論を踏まえて、次年度の連携排砂の計画の案を作成し、また3月～5月に評価委員会と協議会で見ていただくプロセスがあるということでございます。その前提で、まずは資料-1の部分について質疑応答をしていきたいと思っております。

どなたからでも結構ですので、ご発言ある方はお願いをいたします。

資料をご説明いただいた中で、説明を割愛した部分もあるかと思っておりますので、事実関係の確認でも結構かと思っております。資料-1の1ページ目のところで、今年度の結果として、出し平ダムで32万 m^3 と7万 m^3 、排砂、通砂ができたこととか、あと、宇奈月ダムの土砂変動量は4万 m^3 増加した、それを踏まえて環境への影響や先行操作の効果について評価委員会で評価をされて、次年度も試行を継続することといったような意見をいただいているということでございます。

どうぞ、よろしく申し上げます。

A委員

いつもありがとうございます。環境調査結果について少し用語の関係で、もう少し細か

くお知らせいただければと思うのですが、例えば「概ね既往の観測値と同程度」というようなこと、あるいは「概ね既往の変動の範囲内」、そして「大きな影響を及ぼしたとは考えられない」とか、大きな影響と小さい影響というのはどこで判断されるんですかね。この表現の仕方というのはどうなのか、もうちょっと分かりやすく教えていただければと思います。

座 長

事務局、お願いします。

事務局

事務局です。ご質問ありがとうございます。

まず、概ね既往の範囲内といった表現ですけれども、一部のデータにつきまして、過去の観測値を超えたものもございます。それが今回、一部かつ局所的であったということでございます。

それ以外の多くの地点におきましては、過去の観測範囲の中に今回のデータがあるということです。全体的に見て既往の範囲内という意味で、概ね既往の範囲内という表現で整理させていただいております。

大きな影響はないということですが、ここは明確に科学的な基準があるわけではございませんが、例えば海域を例に挙げて申し上げますと、海域では本日ご説明した資料の中でも、A点、ここにフォーカスを当ててご説明しましたが、残りの地点におきましては、いわゆる概ね例年の範囲内ということでしたので、過去と比較して大きな変化はなかったらうと間接的に考えられるということでございます。

なので、局所的な変化はあったものの、エリアとして全体的に大きな変化はなかったということで、表現として周囲に大きな影響を及ぼしていないという整理となっているという考えでございます。

座 長

いかがでしょうか。なかなか数値的にということではないのですが、全体的か局所的かというところが一番大きな言葉遣いかなということでございますが。

どうぞ。

B委員

様々な調査、対策、国土交通省さんはすばらしい取組をされているなどと思って聞いておりましたけれども、1点、別添-3の説明の中で、8ページに、要は上流から流木、木材

が流れ出てきたものの地域住民の方への無償提供というような取組を行っているというご紹介で、R5年度の回収量が210トン、R4年度だと約600トンという量なんですけれども、これは多分全部はけないと思います。下にいろいろ米印で注釈がありますけれども、無償配布期間終了後に適宜処分となっているんですが、最終的には、残った量をどのように処分されたのでしょうか。廃棄物として処理するのか、それとも、例えばバイオマス燃料として活用するのか、そういったところをお分かりでしたら教えていただければと思います。

座 長

事務局、お願いします。

事務局

ありがとうございます。

こちらについては、チップなどにしたりして、リサイクルなどで活用しております。

B 委員

ありがとうございます。

チップだと、よく、破碎するとき土とかが入り込むと刃の傷みが激しくて、とてもとてもできませんよと言った声も聞くんですけども、そういったところの問題も、流れ出てくる途中で、ほぼほぼきれいになるので、破碎しても問題ないという感じですか。

事務局

砂とかをかんだり、そういうのはあるようなんですけれども、そういうのを処分していただける事業所でやっていただいております。

B 委員

ありがとうございます。

私どもも国有林域を管轄しておりますので、上流の、もちろん私どもも山を保全するという形で治山工事をやらさせていただいたりとか、あと、黒部川は直接の上流ではありませんけれども、北アルプス北部の上流部、治山工事を施工しておりますし、こういった流木が出ないような、捕捉するような施工というもの、上流部で止めるような施工も一部させていただいておりますので、今後の私どもの参考にさせていただければと思いますし、いろいろな情報等ありましたら、またお教えいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

事務局

ありがとうございます。

特に上流で止めていただけるのは、こちらとしても非常に助かるところでありますので、引き続き連携させていただければと思います。

座長

ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

どうぞ。

C委員

海域の底質の調査結果のデータについてお聞きしたいと思います。資料、別添-2-①の20ページ、海域の底質のデータですけれども、20ページは酸化還元電位、ORPであります。

A点についての説明があったと思いますけれども、確かに5月のデータから9月のデータを見ますと、9月のデータが非常に低い値で、電位的にはマイナスということで、還元状態ということで、非常に底質のデータとしてはよくないデータではないかなと思っています。これについては、一定期間を空けて追加調査を実施した結果、回復傾向を確認したということですが、具体的にどれぐらいの値だったのか、分かりましたら教えてくださいませんか。

事務局

ご質問ありがとうございます。

A点の再調査の結果につきましては、プラス側で20から30程度、酸化状態であることは確認しております。

C委員

分かりました。酸化状態ということで了解しました。

海域の底質の中で、データで見るとORPとか硫化物、この辺は腐敗の状況の指標なのではないかなと思っていますので、これらのデータがあまりよくない値を示しているということなので、A点だけの数値であるということなんですけれども、今後しっかり注視していただきたいということで、評価委員会でもそのようにまとめられると思います。調査結果を注視していくことということですが、今後どの様な方向で考えていかれるのでしょうか。

事務局

具体的にどのように注視していくかという趣旨のご質問かと思いますが、まずは今回の5月と9月のデータをしっかり見るということです。その観点としましては、今回ORPが低かったということですが、平成26年にも同じぐらいマイナス値相当が出ておったときもございます。

そのときの評価委員会におきましては、ORPとCOD、あるいは泥温、底質ですので泥の温度の関係性などを分析すべきであるといった意見が出されておりました、その結果としましては、ORPとCODに関しましては一定の相関があったと。水深の浅いところほどORPと泥温についても相関がそれなりにあったということです。

今回につきましても、少し前のページでCODを載せておりますが、実際にA点のCODはやや高いということと、載せておりませんが、泥温もやや高めであったということで、過去の分析結果と照らしても同じような傾向なのかなと見ております。

したがいまして、次年度に5月9月のデータを見ていく上では、ORPに加えてCODであったり、泥温との関係性を見ていくということで、注視していきたいと考えております。

C委員

分かりました。

座長

ちなみに回復を確認したというのはいつぐらいの調査になりますか。

事務局

11月頃になります。

座長

11月ですね。分かりました。また引き続き観測を注視されていくということでございました。

ほか、いかがでしょうか。

A委員

この連携排砂は、多分、平成13年から行われておる事業でありますけれども、もう既に20年以上経過する中で、当初と大きく変わったものというのは何があるのかなと。

当初は、やはり排砂自体に否定的という方々もたくさんおられました。ただ、今はそれもやむを得ないだろうと、であれば、より自然に近い形での排砂をとという形に地域の住民

の皆さん方の考え方は変わってきておるのですが、この排砂の在り方自体はどういうふう
に変わってきたのかというようなことを、大ざっぱでもいいですが、何かあれば教えてい
ただければと思います。

座 長

事務局、いかがでしょうか。

事務局

ありがとうございます。

何度か操作自体なんですけれども、宇奈月ダムと出し平ダムの操作というものにつつま
して、何度か大きな変化を起こしております。例えばフラッシュ放流と呼ばれます、宇奈
月ダムから最後に放流するものにつつましては、河川を洗浄するというような意味があり
まして、そういう形で排砂した後の細かい砂を流すといったことや、あと、今、連携排砂で
宇奈月が先行操作ということをしてしておりますけれども、これにつつましても、課題としま
して、宇奈月ダムのところで大きな土砂が流れないといったことを、流すということとし
ているというように、操作自体をできるだけ自然の川の流れに従うという形で、常に変化
しているという意味では、そこが一番大きなところかなと思っております。

A 委員

そういった中で、今の先行操作も含めて新たな取組をしておられることも理解はいたし
ております。

ただ、この20年間で我々の環境自体が変わってきておる、例えば線状降水帯といった
ものが富山県でも去年初めて確認をされたというようなことも踏まえて、環境が変わって
きておることに対して、排砂を6月7月8月の3か月間しかやらないということが大前提
で今行われてきておるわけですが、やはり自然に近い形、環境に優しい形で排砂を行おう
とすることであれば、やはり回数を少し空けてやるとか、3か月間にこだわらずにやれる
体制をいろいろな関係者に打診をすとかというようなことは、ぜひやっていただきたい
と思いますが、いかがなものでしょうか。

事務局

昨年度に同じご提案をいただきまして、そちらの働きかけというものにつつましては、
昨年度から実施しております。

ただ、やはり関係者の方々のご意見がありますので、そこは引き続き粘り強くといいま
すか、ご理解をいただけるというところを目指してやっていきたいと考えておりますし、

例えば昨年度は中止となりましたけれども、これにつきましても、中止基準を見直すということで、先ほど何度かに分けるということがありました。確実に排砂ができるようにということで、中止基準の見直しというの、次年度の取組の一つにも考えておりますので、今ご指摘いただきました環境が変わったことに対する運用ということは、引き続き、続けていきたいと考えております。

A 委員

よろしく申し上げます。

座 長

ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

それでは、先に議事の報告事項（２）に移らせていただきまして、また最後に全体の質疑をしたいと思っております。

（２）ということで、関係団体からの意見と対応についてということで、資料－２で説明をいただいたところがございます。こちらにつきまして、ご質問等ありましたら、よろしく願いいたします。

どうぞ。

D 委員

海面漁業関係者のほうから、昨今、毎年、富山湾の海水温が高くなっているわけですが、捕れる魚の種類も随分変わってきたりして、当然、また連携排砂による藻場への懸念をする声もいまだに一定数あるわけです。

あわせて、言うまでもなくこの１月１日の能登半島沖地震により、富山湾の海底地滑りが発生したと言われているわけです。こういった危惧する意見の中で、今までの連携排砂と今回の地震というのは、そんなに簡単に分けて話すことはできないのですが、ただ、毎年排砂前の５月に海底調査をしているとすれば、今回、よりきめ細かく現状の、令和６年度の排砂に向けて、繰り返しますが、しっかりときめ細かな調査をしておくべきではないかなと思っております。

そういったことも漁業関係者にとっても心配の種が軽減されるように思っておりますので、ぜひ、そういったきめ細かな調査をよろしく願いしたいと思っております。

座 長

事務局、お願いします。

事務局

ご意見のほうありがとうございます。

特に1月に起きた地震の影響というのは確かに分からない部分がございます。きめ細やかな調査ということでは、過去の協議、ご意見等を踏まえて調査の項目だったりを増やしてきたりしているところがございます。そういった意味で、今時点でも相当調査については力を入れている認識はございます。

その上で、もし今、相当調査をしている中で、同じ条件であるのにもかかわらず、何か大きな調査結果の違いが出たとすれば、それはもしかしたら地震による影響なのかみたいな、そういう考察ができる可能性がありますので、そういった目でしっかりと見てまいりたいと思っています。

D委員

地質の調査のみならず、本当は細かいことを言うと、海底ドローンなり等で、もう少し海底がどのような状況になっているかというのは、この機会に抑えていくということも非常に大事なのかなという、単なる地質調査のみならず、少し経費はかかるとは思いますけれども、そこら辺まで踏み込んで、今年度、6年度に向けて、海底はこのようになっているということを押さえておくことも、地震が起きた後の状況、そういったことは非常に大事なことはないかなと、ポイントの時期ではないかなと思っておりますので、積極的にまた取り組んでいただければと思います。

座長

いかがでしょうか。

事務局

地形という意味かなと思うのですがけれども、国土地理院とかでもそういった調査をされているようですので、そちらのほうも、まず一度参考にさせていただいた上で検討していきたいなと思います。

座長

どうぞ。

A委員

関連してなんですが、入善町のほうでも海洋深層水に大きな打撃があったわけですがけれども、漁業者の皆さん方からも、海底の状況を知るすべがないのかというような意見もございます。もしそういった、国土地理院も含めてでしようけれども、国のほうでの情報な

んかがございましたら、ぜひ提供してやっていただければありがたいなとは思っております。

それと、3団体からのいろいろな要望なり意見というものがあるわけですが、ここ数年は内容的に同じようなものが出てきておるような気がしてならないのですけれども、この3団体の皆さん方、一堂に会しての意見交換会みたいなことはやっておられるのでしょうか。

事務局

この会議の前に関係の方、皆さん集まって行っております。個別に行うとともに、皆さん集まったの会議をしております。

A委員

ありがとうございます。

そうすると、皆さん方それぞれ相手方といいたいでしょうか、ほかの2つの団体の方々が、どういう意見を求めておられるかというようなことを、ご存じだということによろしいですよ。

事務局

そうですね。こちらの資料も同じく共有させていただいておりますので。

A委員

ありがとうございます。

あと1点、特に農業関係団体、今、農業経営も大規模化してきておる、そしてまた、いろいろな作物をつくるということであれば、長期間にわたって水が必要な時期が出てきておるとい点では、もうこの10年、20年の間に大きく変わってきておるわけですが、そこに対する情報の提供の仕方ですよ、今ここでいうと、ツイッターであったり、ホームページということは、向こうから調べてくださいよという受け身の形ですが、こちらからプッシュ型の、例えばラインなんかを通じた会員登録するような形での情報提供というのはできないものなんでしょうか。

事務局

今、Xになっている旧ツイッターのほうも、一度フォローして設定すればちゃんと通知がLINEみたいにいきますので、その辺は登録している方はご理解いただいて、SNSであるXでの情報発信を今以上にきめ細やかにやってほしいというご意見をちょうど連絡会議の中でもいただいたところで、その辺り対応していきたいと思っております。

A 委員

極力、事前にといいましょうか、ある程度余裕を持って皆さん方が準備をすることができるような体制になるよう、またご協力をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

事務局

そうですね。事前に登録していただく段階で、市町の方に、ここをフォローしてくださいというような、お知らせをしていただくところ、今もご協力いただいていますけれども、その辺り、またお願いすると思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

座 長

せっかく発信している情報ですので、広くの方に見て知っていただけるように、その連携は引き続きお願いしたいと思います。

ほか、いかがでしょうか。

お願いします。

E 委員

今の議論と繰り返しになりますけれども、前回もお願いしたかと思いますが、X以外にも何か発信の手段を持たれたらいかがかなということを思っておりますので、また、そこのご検討をお願いしたいと思います。

それから、各団体の意見については、今、A委員から大体最近は例年同じ意見かなということではありますが、また3団体でいろいろ意見の方向性とか、調整は難しいところはあるでしょうけれども、団体さんの要望にできるだけ沿うような形でお願いしたいと思います。

それから、最後に、この協議会での検討事項かというのは少しどうかなと思うところもあるのですが、やはり1月1日の地震の関係で、この新川エリアの海岸の地滑りとか、そういうものと土砂の堆積の関係は、関係があるというか、土砂が堆積しないと海岸が侵食されてというところがあるので、今回みたいな地震が起きたときに、この新川エリアの沿岸の海岸が大丈夫なのかというところについて、また、ここの調査の場でも研究していただければありがたいかなと考えております。

黒部のほうでも、住民の方から一部液状化現象が起きたよということで、それはやっぱり黒部川がダムによって土砂が排砂されなくなった、そういう影響もあるんじゃないかという意見もいただいておりますので、そういう意見も踏まえていただいて、地震のときに

大丈夫かというところについても調べていただければありがたいです。

以上です。

座 長

事務局、いかがでしょうか。

事務局

一番最初のSNSの発信方法については、こちらも一段、より皆さんに見ていただける方法を引き続き検討していきたいと思っております。

あと、海岸のほうでは、この連携排砂とはまた別に、下新川海岸のほうでも事業はやっておりまして、その関連の調査は別途しております。また、当事務所の情報を渡して、土木学会などの有識者の方に調査いただいている部分などもありますので、その辺りもなるべく地元の方々と共有できるような形にできればいいかなと考えました。

座 長

どうぞ。

A 委員

関連ですけれども、こういった情報というのは、この3団体だけではなくて、いろいろな方々が知りたい情報の一つなので、国土交通省のほうからもっと地域の皆さん方にPRをしていただきたいと思います。我々もやりますけれども、3団体からの意見だけではなくて、いろいろな人たちにもこういった情報が発信できる体制というものを、ぜひご検討いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

座 長

よろしいでしょうか。今のご発言は要請ということで。

事務局

広報の件については、特に最近、例えば流木の対応のときは市町の広報とも連携させていただきまして、事務局だけで発信しようというのではなくて、きちんと地元行政機関の方々と連携して発信させていただきたいと思っております。

座 長

ありがとうございます。そのほかございますでしょうか。

お願いします。

F 委員

まずもってなんですけれども、昨年なかなか雨が降らないという話が冒頭ありましたが、

一方で6月末、あるいは7月に入ってからは大変大きな雨が降りまして、県内の至るところで被害を受けております。その際には国土交通省様をはじめいろいろな方々にご支援、ご協力をいただいております。本当にありがとうございます。

それから、1月に入ってから地震に際しても、県内至るところで被災しておりまして、これに関してもいろいろな形でご支援をいただいておりますことを、まずもってお礼を申し上げたいと思っております。

それから、今日幾つか申し上げたいなと思っていたことは、事実上お答えをもう既にいただいておりますので、こんなことを思って来ましたというご紹介にとどめさせていただきたいと思っております。

一つは、A委員のほうからお話がありました今回の意見の最後の取りまとめで、調査結果を注視していきたいと、これまでの調査結果は概ねこれまでの範囲だということも私も非常に気になったところでありまして、11月に少し追加の調査をされたということで安心したのと、もし可能でしたら、これまでせっかくたくさん経験をしてきておるわけでありまして、これまで回復してきた数値と比べてどのように今後推移していくかというようなことも注視していく指標になればいいのではないかなということも思いながら今日は来たところでありました。今後、多分その数値を見ながらされると思いますので、ぜひそれをお願いしたいと思っております。

それからもう一つは、より自然に近い形で排砂、通砂を進めていくというのがこれまでの考え方であったと思えますし。いろいろなことを気象条件に合わせてやっていくんだということも伺っておりまして、今、お話の中で中止基準の見直しも、いろいろなところで問いかけをしながらやられていくというふうにも伺いました。こんなようなことも、ぜひ新たなトライをしていただければいいなということも申し上げたいと思っておったんですが、先ほどおっしゃっていただきましたので、ぜひ新たなトライを、雨がいつも降ったり降らなかったりの中ではありますけれども、お願いできたら、よりよいものになるんだろうと思っております。

どうぞよろしく願いいたします。

座 長

ありがとうございます。コメントということで承りたいと思います。

ほか、いかがでしょうか。

そうしましたら、全体に戻って足りていない部分等あればお願いしたいと思います。

事務局も何か説明足りていない部分がございますか。大丈夫でしょうか。
どうぞ。

B 委員

1点、地震の関係のお話なんですけれども、1月1日に発生しましたが、4日後の1月5日に、私どもでヘリコプターによる調査を行いました。東部と西部と山岳域中心なんですけれども、上空から目視にて確認させていただきました。その結果、小さな崩壊は若干あったかもしれないんですけれども、目に見えて大きな崩壊というものは確認できませんでした。こちらの東部地域についても、くまなく海岸まで飛んだんですけれども、そういった大きな崩壊というものは確認されておりませんでしたので、ご報告させていただきます。

以上です。

座 長

ありがとうございます。ほかは大丈夫でしょうか。

それでは、ないようでしたら、若干、まとめをさせていただければと思います。

本日、事務局のほうから議題2件、説明をいただきました。それにつきまして、質疑応答、意見もいただきまして、関係機関とより連携をして広報など、さらにできることもあるということを感じた次第でございます。

今回出されたご意見と、それから、1月22日に開催された評価委員会での意見、こちらを踏まえまして、事務局において、来年6年度の連携排砂及び環境調査計画の案を作成して、次回の協議会に提示をお願いしたいと思います。

また、今後、回答をする必要がある事項がございましたら、次回の協議会で回答していただくか、もしくは個別に対応するもの等につきましては、事務局等において、それぞれ対応をお願いしたいと思います。

それでは、本日の議事につきましては、以上で終了いたします。ご協力ありがとうございました。

司会にマイクをお戻しいたします。

4. 閉 会

司 会

長時間にわたりましてご審議をいただき、誠にありがとうございました。

次回の協議会につきましては、令和6年度の連携排砂計画の案及び環境調査計画の案につきましてご審議をいただきたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

以上をもちまして、第55回黒部川土砂管理協議会を閉会させていただきます。

本日は誠にありがとうございました。